

貴州省東南部ミャオ族社会における服飾に関する研究

－女性による服飾製作と刺繍技術の継承－

平成 19 年入学

参加したフィールドスクール：ベトナムフィールドスクール

調査地（調査国）：貴州省東南部（中華人民共和国）

佐藤 若菜

キーワード：中国西南部，少数民族，ミャオ族，女性，服飾，刺繍，技術継承

自分の研究テーマについて

現代中国において少数民族を最も端的に表象するのが民族衣装である。ミャオ族の衣装は、その精緻で派手な刺繍や銀装飾によって知られ、国内のテレビや雑誌でよく取り上げられてきた。その表象の場においてその民族衣装を着ているのは多くの場合、女性である。男性の衣装は漢族とほぼ同じであるのに対して、女性の衣装は刺繍技術を駆使した一見して「ミャオ族」と見極められる独自の形を保持している。そして、その衣装を製作するのもまたミャオ族女性である。父系制社会とされるミャオ族社会において、刺繍技術は女性たちによって継承されてきた。急速な市場経済化が進み、少数民族が観光化の対象とされていく現代中国において、刺繍や衣装の製作技術は生活の中でどのように継承され、維持されているのだろうか。



写真1 貴州省台江県台拱のミャオ族刺繍

これまでの先行研究を概観すると、ミャオ族の服飾は、社会変容をきっかけとしたグローバルな広がりとともに語られるか、ミャオ族イメージを提示するときのマーカースとして描かれるか、その製作技術が分析されるかのいずれかであった。また、一部のミャオ族が近代性をアピールするとき用いる道具として服飾が描かれるものの、その表象が現実に彼らの生活のなかでどのような重みを持っているのか、そもそもミャオ族自身がどのように「近代性」に関わっているのか定かではない。また、その中で服飾がどのように製作され、その技術が継承されているのかについても明らかになっていない。

フィールドスクールから得られた知見について



写真2 タンラック郡ナムソン村の風景

フィールドスクールの中で、最も印象に残っているのはJVCによる「住民参加型農村開発プロジェクト」である。JVCベトナム事務所代表の伊能さんはドイモイ導入後の1990年にいち早くベトナム北部に入り、1993年から農村開発事業を開始した。1999年からは「住民参加型農村開発プロジェクト」を始め、ホアビン省タンラック郡の3村26集落、1362世帯6472人のムオン族を対象に実施している。この活動目標は彼らが土壌流出を防ぎ、地域の自然資源を活かした生態系に配慮した農業を実践し、食料を安定的に確保することである。

伊能さんはプロジェクトを実施する中で、村人との時間をかけた密な交流が援助をする上で必要であると感じ、最初の1年間は

村の情報収集および村人との関係を深めることに時間を費やしたのだという。それによって、在来農法といった地元の知識を最大限に活かし、在地に適した持続的農業を導入し、既存のネットワークを利用して自然資源管理や在来種の劣化防止と改良、植物や害虫の防疫に関する情報を提供することに成功している。JVCの「住民参加型農村開発プロジェクト」の援助方法は、今後実務家を目指す上で大変参考になっただけでなく、今後行なう長期フィールドワークが農村開発援助にも有益であることを学んだ。

今回の農村見学は数箇所にとつた聞き取り調査のみであったが、定点調査を行ない農業等にも携わることも必要だと感じた。

フィールドスクールで学んだことをどのように研究テーマにいかせるか？

上述のように、援助を効率的に広めていくには地元のネットワークを把握し、利用していくことが有効である。ミャオ族女性のネットワークに関する記述は少ないものの、『ミャオ族社会歴史調査（一）～（三）』[貴州省編輯組 1986; 1987a; 1987b]などのように、1949年以降に民族政策の一環として行われた少数民族調査の成果には、女性の生活と服飾製作、継承を通じた女性のつながりに関する記述が断片的とはいえ散見される。この中では、母親や兄嫁、姉、友人から習得した刺繍技術が、結婚後、娘や義理の妹、友人へと親族を超えて継承されていくことが示されている。文化人類学的中国社会研究は、中国社会における父系出自理念の強固さ、家族・親族に付与された倫理的価値の重要性、そして社会関係における家族・親族の機能性の高さを、中国社会の重要な属性として着目し



写真3 タンラック郡ナムソン村の家屋

てきたが、今後は刺繡技術の継承を通して、ミャオ族女性の生活の中でのつながりに着目していきたい。

参考文献

- 貴州省編輯組編. 1986. 『苗族社会歴史調査（一）』 貴陽：貴州民族出版社.
貴州省編輯組編. 1987a. 『苗族社会歴史調査（二）』 貴陽：貴州民族出版社.
貴州省編輯組編. 1987b. 『苗族社会歴史調査（三）』 貴陽：貴州民族出版社.